

# コトバカっ!



コトバカ  
言葉家……言葉を操る専門家。言葉にバカに詳しい人。言葉にバカみたいにこだわる人。

コトのほかバカ。コトによるとバカ。コピーライターの俗称。

上から読んでも相川藍、下から読んでも相川藍。コトバカの相川藍が言葉についてコトバカるっ!

## 女優語プレイ

物心ついたときから、文章を声に出して読むのが好きだった。母親のあとをつけまわして思い入れたっぷりに本を読み聞かせ、ちゃんと聞いていたかどうか最後にテストしたりしていた。イヤな子供だ。

小学校では放送部に入り、大学時代は声のバイトをやった。人前に出るのが苦手なので、影アナといわれる裏方のアナウンスがメイン。たとえフアッションビルにおける「〇階、〇〇ショップまでお越しくださいませ」というお客様の呼び出し。これほど気分が上がるバイトがあるだろうか。「ませ」なんて助動詞、ふだん使わないからうつとりである。声のトーンを変え、別人になりきるのだ。ああ、今もやりたい!

エレベーターガールのバイトは接客を兼ねているから緊張したが、ポタンと向き合っている時間が長いから大丈夫。手袋をはめた手とともに「上へまいります」の「ます」をはね上げて発音する快感といったら!

大学野球の場内アナウンスをやったときは「4番、ファースト、〇〇くん、〇〇高校、背番号、7」など、ポジションや出身校を、間をあげながら淡々と発音するだけでソクソクした。「くん」という呼び方はかなり青春っぽくてこぎめく。プロ野球になると呼び捨てだね。

要するに、単純なアナウンスでも、女優になったようなドラマチックなセリフ効果があること。体で演技できなくても、発音する言葉で変身願望が満たせる。音読することで文章のリズム感も磨かれるから「じえええ!」でも「やられたらやり返す。倍返しだ!」でもいいから、気に入ったフレーズはどんどん言ってみよう。ただし、発音して気持ちよくない言葉は、みるみるストレスに。「〇〇に清き一票をお願いします!」と通行人に連呼する選挙のバイトは、喉を痛めたし向いてなかったな。

ちなみに公募カイトの編集長は、学生時代、高級洋菓子店でバイトしていたとき「かしこまりました」という執事っぽいセリフが苦手だったぞ。だけど、紅茶の注ぎ方は今も流れてウワサです。じえ!

あいかわ あい ことばか  
相川 藍 (言葉家)

丸の内文学賞 (大賞)、朝日広告賞 (最高賞)、インターネット書評コンテスト (最優秀賞) 受賞。早稲田大学第一文学部卒。コピーライター。